

2 年余りに亘って書き綴った『朔東から』も、そろそろ終りにせざるを得ない。終わりに当たり、128 号までを総括してみた。

当地で私が感動した事項等を主体に記述したこの『朔東から』で、この地域のことの全てを書き切った訳ではないが、ある程度の事が解って頂けたのではなかろうか。仕事においても満足したが、職務外でも、正に、感動の二年間であった。その感動を共有して頂けたら幸甚である。

無限の可能性を秘めた北の大地、日高・大雪・阿寒・知床の各山系等、そしてその麓に広がる深い森、日本で最も数が多く且つ広大な湿原群、これらの地域に棲み・生きる数多の動植物達、恵みを齎す豊饒の海、それらが織りなす春夏秋冬の風物詩とその地ならではの数々のイベント、其処に住まう人情味溢れる人々、そしてそれらに関わりあう意気軒昂な朔東健児達をアットランダムに採り上げて紹介してきた。

それらをグルーピングしてみると以下のようなになるのだろうか。

熊師団の流れを汲む第 5 師団とその隷下部隊の訓練状況や地域との関わり等についても、随時紹介し、更なる相互理解の促進等に配慮した積りである。その成果の程や如何に。

(参照：1、13、18、21、25、29、36、47、57、62、63、83、87、90、93、94、97、99、101、108、111、112、122、123)

雄大な北の大地である朔東地域は、日本有数の自然の宝庫であり、自然景観の素晴らしさは群を抜いていると言っても過言ではない。北海道遺産あり、世界遺産への登録をも期待されている処もある。また、夫々の地域・季節を代表する独特の風物詩や風景があり、それが財産でもある。地域に住む人々は、それらを誇りとし、自然と共生しようとしている。この心根が嬉しい。

(参照：春：11、22、66、68、70、75、77、80、82、124、128

夏：27、35、38、91、102、

秋：92、107、109、110、

冬：2、7、48、49、114、115、117、118、119、120、121、125

その他：55、65、69、71、78、79、88、96)

北海道の開拓は幾多の苦難の連続でもあった。その歴史があつて今があり、今の良さを実感出来る。温故知新を求めて、朔東管内の歴史を拾ってみた。(参照：12、14、16、26、31、33、34、46、51、52、53、54、56、58、59、64、74、78、79、80、84、105、119、116、126)

朔東はまた、大地・大海の恵みの素晴らしい所であり、日本の食料基地でもある。数多の海や山の幸を堪能できる素晴らしい地である。日本の食の宝庫の美味しさの源泉に迫ってみた。唯、十分に伝え切れないもどかしさを感じながらも幾つかを紹介した。(参照：15、

19、20、40、43、45、72、86、89、100、106、113、127)

管内の人々は短い夏を思い切り楽しみたいのだろうか、清々しい気候の中での夏らしいイベントが繰り広げる。そして、厳しい冬にはそれを最大限に利用した厳寒の地ならではの、冬季限定のイベントが展開される。それらを全て堪能するという訳にはいかなかったけれども、幾つかに参加させて貰い、良い思い出を作ることが出来た。(参照：4、8、37、60、61、87、88、101、123、125)

北海道の森や湿原には、北海道ならではの動物や植物が活動している。大きな熊や、美しい舞を見せる丹頂鶴、コチョコチョ走り廻る可愛らしい蝦夷リス等、そしてひっそりと咲く小さな花々、それらに少しばかり眼を向けた。(参照：10、17、25、38、41、42、70、73、76、85、91、95、104)

当地で決して忘れてはならないのが、北方領土である。未だ帰らざる父祖伝来の地の返還運動が結実する日の来たらんことを願いつつ、納沙布岬に立ち、また空からも北方領土に臨んだ。(参照：6、59、81、98)

5 師団管内には 5 市、39 町、5 村の 49 市町村があり、夫々が独自の文化と歴史を持っている。その市町村も今、平成の大合併で揺れている。どういう流れになるのか全く予断を許さない状況のようだ。そんな生臭い話は抜きで、それら市町村に関わる事項も幾つか取り上げてみた。(参照：3、4、9、11、23、24、28、30、31、32、39、44、50、54、57、74、85、103)

北の大地はまた、温泉の宝庫でもある。世界に余り類のないと言われるモール温泉や温泉巡りで必ず紹介されるような名湯や秘湯と呼ばれる温泉も数多く、朔東管内の温泉を全て堪能するとしたら相当な時間もかかるだろう。帯広市内の銭湯も有難いことに天然温泉であり、ストレス解消やダイエットの為に数え切れないほどお世話になった。(参照：16、60、118、121)

朔東を書くに当たって話題・資料の提供、案内等をして頂いた多くの人々に、この場を借りて感謝申し上げます。